

平成 25 年度 岸和田サテライト友の会総会・夏季講演会の報告

7月20日(土)、友の会の総会・夏季講演会と岸和田サテライト後期開講授業説明会を実施しました。講演会には、会員22名、一般の方14名、大学関係者7名の計43名の参加がありました。

<友の会総会>

冒頭の金野会長の開会挨拶に続いて、今年4月から新たに岸和田サテライト長に就かれた藤田和史先生(経済学部)から、「今後もサテライトの活性化に友の会の皆さんのご協力を賜りたい」との挨拶とお願いがありました。

今年は2年に一度の役員改選の年。事前に幹事会で話し合っただけで推薦された新しい役員体制は会員の皆さんによって承認されました。仕事の都合などで幹事会への出席が困難となってきた2人の役員が退任された一方、新たに3名の方に幹事として加わっていただくことになりました。

新役員の紹介につづき、金野会長から昨年度の総会以降の活動紹介、今年度前期の受講をきっかけに友の会へ入会された新たな会員6名の方の紹介がありました。また、監査から友の会の会計活動のあらましと収支状況が報告されました。



<夏季講演会>

今年の夏季講演会は、修士論文発表と講演(プレ講義)の二本立てで開催しました。

1つ目は、会員の作田孝子さんによる修士論文発表「戦前期大阪の紡績産業の分析」。

作田さんは、数年間サテライトで社会人科目等履修生をされるなかで、学生時代や、その後も働きながら続けてこられた女性史の学習・研究の成果をまとめてみようと思われたとのこと。その後、経済学研究科へ社会人院生として入学され、昨年度末に修士課程を修了されました。

論文は、繊維産業に関する先行研究の学習や戦前の統計資料の分析、紡績会社の元労働者などへの聞き取りを通して、1920年代の泉州の紡績会社の経営実態、企業間や男女間の賃金格差、それらを背景とした労働争議の顛末と教訓についてまとめられました。



参加者からは、「努力の積み重ねが想像でき、興味深く聞きました」、「戦前の資料を掘り起こして丹念に研究されており、大変注目しています」、「劣悪な労働環境など、現代の発展途上国の問題を日本も通ってきている。その知恵をいかにせればいいのだが」、「泉州の紡績産業には光の部分と影の部分があると思うが、光の部分のお話も聞かせてほしい」といった感想が寄せられました。

2 つ目は、中村太和先生の講演「“東日本大震災・フクシマ” から何を学ぶかーライフラインからライフスポットへ」。

中村先生にはサテライトで後期に開講する学部授業「地域環境・自然エネルギー革命ー環境と防災を統合した地域づくりー」を担当していただきます。今回の講演は、この後期の授業のプレ講義を兼ねたものとして企画しました。

中村先生からは、「これまでにサテライトで 2 回ほど授業を担当しました。その時にいっしょに議論したことのある受講生が、友の会の中心メンバーとして活動されていることはうれしいことです」といった挨拶がありました。



* * * 以下、講演要旨 * * *

はじめに

私たちは、3.11 から何を学び、そしてその教訓をこれからの社会づくりにどのようにいかしていくべきなのか。3.11 の最大の教訓は、原発依存の危険性ということだけでなく、大規模・集中型のライフラインに依存した社会が負っているリスクの大きさであった。近い将来に来るであろう“西日本大震災”の復旧には長い時間がかかると考えられる。ライフラインから自立した小規模・分散型の自給システム＝ライフスポットという考え方を中心に据えた地域づくりをしていくことが大切となる。従来、資源・環境問題と防災問題とは別々に論じられてきたが、これからはライフスポットを媒介に両方の問題をセットで議論していくことが大事になっている。

資源・環境問題の深刻化

近い将来、食料危機・水危機・エネルギー危機に直面するであろう。石油残量をめぐるピークオイル論争、シェールガス開発にともなう環境への負荷、地球温暖化による海水面の上昇、放射性廃棄物が将来社会に課す多大な負担、原発の温排水の地球温暖化への影響などの問題が深刻化する世界に私たちは生きている。

こうしたなか、自然エネルギーの可能性について考えるときに来ている。世界のエネルギーをめぐるトレンドに目を向ければ、2010 年に自然エネルギーによる発電容量が原発による発電容量を超えるというパラダイム転換が起こっている。例えば、ドイツでは過去 10 年の間に太陽光発電の

導入が急速に進み、そこでは多くの新規雇用が生み出された。

中国やインドでは経済成長に伴う電力確保のために政府によって原発の増設が進められようとしているが、国民の一部には反対もある。今後、政府の思い通りに進まない状況が生まれてくるだろう。数年前、アメリカでは「原発ルネッサンス」といって原発への回帰が見られたが、それは国家が丸抱えで面倒をみるもの。あまりにリスクの高すぎる原発はウォール街からはもはや投資対象としては不適格だと考えられ見向きもさ



れなくなっているというのが現実である。

“西日本大震災”の可能性

西日本で大震災が起こった場合、3.11 東日本大震災以上の規模の被害が想定される。東日本では高速道路の早期復旧などによって支援が進んだが、南海トラフ巨大地震が発生すると、太平洋沿岸一帯が被害を受けて陸上交通による支援は滞ってしまう。支援が日本海側から入って来ることになった場合、泉南地域においても数週間は援助が来ないことを想定しておく必要がある。

南海トラフ巨大地震を想定して最も懸念されるのが想定震源域の真上にある浜岡原発。万が一、放射能漏れ事故が起これば、近畿圏を含めて数千万人が避難を余儀なくされることになる。原発の是非はともかく、極めて高いリスクを負っている浜岡原発は再始動せず、使用済み燃料などを早急によりリスクの低い場所へ移すべきである。

食料・エネルギー・水の地域自給

3.11 で明らかとなった原発に代表される大規模・集中型システム＝ライフラインに依存することの脆さを克服していくためには、ライフラインに依存しない地域づくりを進めていくことが必要。とくに食料、エネルギー、水の地域自給を強化すべきである。

このことは、古い時代に戻れというものではない。現実の社会の動き、新しい技術の動向を理解すれば、そうしたことが可能になりつつある。食料についていえば、市民農園や農産物直販所、都市近郊農業と都市住民が連携して地産地消の地域づくりが進みつつある。エネルギーについても小規模・分散型の電源であるコジェネレーション（熱電併給システム）の導入が進んでいる。自然エネルギーの豊かな田舎の自治体では、すでにエネルギーの自給自足が実現している。今後、日本に最も適した自然エネルギーである小水力と地熱、将来的には森林資源を活かしたバイオマスが重要となるが、水力発電はダムを作らなくても水中タービンを使った優れたシステムができています。これからは、電気は自宅で作るもの、地域で作るものになってくる。その時、地域の歴史を掘り起こし先人に学びながら資源の地域循環を含めたエネルギーシステムを考えていくことも大切となる。



自然エネルギーに乏しい都市部ではコジェネレーションの導入が進んでおり、例えば、六本木ヒルズなどではすでに電力自給を確立している。住宅会社は住宅とエネルギーを一体化させた販売戦略を展開しており、そこにハイブリッドカーも加わってくる。大企業では、“スマートグリッド”、“スマートシティ”といわれる技術を基盤にしたまちづくりをすでにビジネス戦略にしつつある。

まとめ

外部資源に依存した大規模・集中型システム＝ライフラインから地域資源を活用した自立自給のシステム＝ライフスポットへの転換が求められている。資源・環境問題に対応しながら、災害にも強い地域を創っていくこと、地域資源を掘り起こしながら地域内で資源（雨水や木質など）循環が可能となるシステムを作っていくこと、こうしたことをそれぞれの地域特性をよく理解しながら進めていくことが大切。後期に開講する授業では、皆さんといっしょに地域を調べ、議論し、考えていきたいと思います。

* * * 以上、講演要旨 * * *

講演の後の質疑応答のなかでは、小規模・分散型システム＝ライフスポットのメリットだけでなく、現状では高コストにならざるを得ないデメリットを課題として抱えていることなどについても意見交換がされました。

中村講演には、以下のような感想が寄せられました。（一部を抜粋）

- ・ ライフスポットの視点は、今後、予想される大規模災害時にいかに有効か考えさせられた。
- ・ 個人での対応可能な事柄——雨水利用、小水力発電などに興味を覚えました。地域全体や地方行政などの取組み実態も知りたく思いました。
- ・ 恐ろしい話、良く理解出来たが、現実はどうしていけば良いのか、更につっこんだかたちに進めるにはどうしたらよいのか、関心を持ってみたい。
- ・ 自然エネルギーにもどるにはなかなかではないか？使い放題だった電気の生活を切り替える意識改革はどうするのか？
- ・ 原発事故で気づかされた原発依存社会。深刻化する食料問題。気の重くなる未来にショックを受けましたが、まだまだ未来への展望をもてるようなことがあることがわかり、ホッとしました。私たちの子どもたちにも地球を残していくため、今、自分自身が取り組まなければいけないことを考えるきっかけになりました。

<岸和田サテライト後期授業説明会>

今年度後期授業の受講生募集にあたり、神谷 地域連携コーディネーターからサテライトでの受講制度の説明、昨年度および今年度前期の開講授業の様子や後期開講授業の内容と担当教員の紹介などを行いました。

講演会に引き続いて授業説明会にも多くの方々に参加していただきました。



<懇親会>

講演会の後は、恒例の懇親会。藤田サテライト長と同じくこの4月から副サテライト長に就かれた金子泰純先生（システム工学部）にもご参加いただきました。講演を聞きに来られた会員以外の方々の参加もありました。サテライトと関わるようになったきっかけや、サテライトを通して広がった学びや人づきあいなどの話題で盛り上がり、交流も深まりました。

金子先生からは、「サテライトに対する要望があれば、友の会の皆さんから大学へ直接届けていただきたい。サテライトはそうした皆さんの声に支えられています。よろしくお願いします」との締めのおあいさつがあり、（とりあえず一次会は（*^_*）お開きとなりました。

